

第2章 保育の内容 (33 項目)

Table with 4 columns: Item description, 21%, 37%, 42%, 0%. Includes items Q43-Q69 covering topics like 'Child's safety', 'Basic childcare', 'Child development', and 'Child protection'.

第3章 健康及び安全 (13 項目)

Table with 4 columns: Item description, 26%, 53%, 21%, 0%. Includes items Q70-Q88 covering topics like 'Child's health', 'Safety', 'Disaster preparedness', and 'Child development'.

Q89	保育及び子育てに関する知識や技術など、保育士等の専門性や、子どもが常に存在する環境など、保育所の特性を生かし、保護者が子どもとの成長に気が付く子育ての喜びを感ずられるように努めている。	37%	46%	10%	5%
(2) 子育て支援に関して留意すべき事項					
2 保育所を利用してしている保護者に対する子育て支援					
(1) 保護者との相互理解					
Q90	保護者との状況に即応した個別の支援がとれている。	32%	53%	15%	0%
(3) 不適切な養育等が疑われる家庭への支援					
Q91	不適切な養育等が疑われる家庭への支援が確立されている。	37%	47%	15%	0%
3 地域の保護者等に対する子育て支援					
(1) 地域に関わられた子育て支援					
Q92	保育所は、児童福祉法第48条の4の規定に基づき、その行う保育に支障がない限りにおいて、地域の養育や当該保育所の体制等を踏まえ、地域の保護者等に対して、保育所保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に行うよう努めている。	26%	37%	37%	0%
(2) 地域の関係機関等との連携					
第5章 職員の資質向上(6項目)					
1 職員の資質向上に関する基本的事項					
(1) 保育所職員に求められる専門性					
Q93	自己評価に基づき(課題等把握し、保育所内外の研修等を通じて、自身の職務内容に応じた専門性を高めるため、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上)に努めている。	32%	53%	15%	0%
(2) 保育の質の向上に向けた組織的な取組					
Q94	保育所においては、保育の内容等を通じて信頼した、保育の質の向上に向けた取組に積極的に取り組む。保育内容の改善や保育士等の役割分担の見直し等に取組むとともに、それぞれの職位や職務内容等に応じて、各職員が必要知識及び技能を身に付けられるよう努めなければならないことを知っている。	26%	64%	5%	5%
2 施設長の職務					
(1) 施設長の職務と専門性の向上					
(2) 職員の研修協会の確保等					
(1) 職場における研修					
Q95	職員が日々の保育実践を通じて、必要な知識及び技術の修得、維持及び向上を図るとともに、保育の課題等への共通課題や協働性を高め、保育所全体としての保育の質の向上を図っていくために、職場内での研修の充実が図られている。	10%	27%	56%	5%
(2) 外部研修の活用					
Q96	必要に応じた外部研修への参加機会が確保され、参加している。	16%	27%	47%	10%
4 研修の実施体制等					
(1) 体系的な研修計画の作成					
Q97	保育所においては、当該保育所における保育の課題や各職員のキャリアパス等も踏まえ、初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた体系的な研修計画を作成しなければならないことを知っている。	10%	32%	53%	5%
(2) 組織内での研修成果の活用					
Q98	外部研修に参加する職員は、自らの専門性の向上を図るとともに、保育所における保育の課題を理解し、その解決を支援できる力を身に付けることが重要であることを理解している。	92%	53%	15%	0%
(3) 研修の実施に関する留意事項					

① 保育所保育指針に基づくチェックリスト総評

I 園の基本方針について(5項目)

○職員一人一人が自園の保育理念や目標を理解しているとされているが、全体的な計画を今一度見直し職員全体が理解できるようになることが必要。

II 保育所保育指針

第1章 総則(37項目)

○保育所の役割を再確認することができたように思う。特に、保育所の子どもだけではなく、地域の子育て家庭に対する支援を職員一人一人が認識をもってほしい。

○保育の環境について、計画的に環境を構成し保育を行っているが、保育の意図は何か、年齢に合った適切なものが常に考えながら、子どもが自発的に活動できるような環境を整えられるよう見直したい。

第2章 保育の内容(33項目)

乳児保育に関わるねらい内容

○乳児の発達をよく理解し、一人一人を大切にしながら愛情豊かに保育ができていいると思われ。

○養護における援助と関り、発達の援助として乳児期の領域「3つの視点」をきちんと押さえて計画を立てる。

1歳以上3歳未満

○基本的な運動機能や、身体的機能が自立に向かい、言語面において言葉数も増加し、自分の意思や欲求も言葉で表出する時期であるからこそ、個人差を考慮して保育していくことの重要性を認識して保育する。

3歳以上児

○基本的な生活習慣がほぼ自立し、個から仲間という自覚が出てくるが、個の成長があがっての集団作りと捉えることを職員一人ひとりが認識してほしい。

○「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を保育計画の中にきちんと押さえて立案する。

第3章 健康及び安全(13項目)

○子どもたちの健康及び安全には常に留意し、適切に対応できている。危険な事や事故につながるような時は、職員間で情報共有しながら未然に回避できるようにしている。後まわしせず、迅速に対応するよう心掛ける。

○栄養士を中心に、食育計画を立て、アレルギー食にも個別に対応できている。誤食がないようこれからも危機感をもっていきたい。

○災害については、「忘れたころにやってくる」という意識を常にもち、落ち着いた行動ができるように、避難訓練の実施、マニュアルなどを見直しを行う。

第4章 子育て支援(4項目)

○子ども一人ひとりの生活環境や、成長歴を把握しておくことが必要であることは、職員が意識しながら事前に関係情報を共有し合って保育にあたっている。

○地域の子育て支援としては十分に機能していないところもある。

第5章 職員の資質向上(6項目)

研修は、積極的に関与できるように促したい。園内でできるオンライン研修などは自ら受講できる環境を整えた。

保育の基本となる保育指針を今一度読み直すべきか検討しよう、今回は保育指針に沿った評価を行った。法的な根拠となる指針の読み直しながら、保育の振り返りも必要だと思われる。

また、ポイントが高くなかった地域の子育て支援については、みなが保育所の役割一つとして重要なことであると認識すること。

②保育所・認定こども園等における人権擁護のためのセルフチェックリスト ～「子どもを尊重する保育」のために～ 総評

セルフチェックシートを記入し、気づいたことを記入する。その結果を踏まえ、今後自らのように保育に取り組むことが必要だと考える、5つのカテゴリに分け一人ひとり記入した。
毎年セルフチェックリストを基に記入しているが、自分を振り返るよい機会になっている。

(1) ひとりひとりの人格を尊重しない関わりについて
時間に余裕がない時や自分自身に、余裕がなくなると、子どもが頑張っているのに手伝ってやったり、急がせる言葉かけになってしまったりと反省する。どんな時も計画をきちんと立て、余裕をもつことを心掛けたい。
また、たとえ乳児であれ、保育者が一方的に判断せず、行動をする前に意思確認や声掛けを行いたい。

(2) 物事を強要するようなかかわり、脅迫的な言葉かけについて
肯定的な言葉かけをしているつもりであるが、語気が強くなったりしていることもある。注意した後は必ずその理由を分かりやすく説明したり、一緒に考えたりしながら、子ども自身が納得して行動できるようにしていく必要があると思う。

(3) 罰を与える・乱暴なかかわりについて
罰や乱暴なかかわりは、決してあってはならないことは全職員が認識している。しかし、危険な行動をしている時相手にケガを負わせるような場合は毅然とした態度で注意することも必要だとも思う。
何故いけないのか、成長段階を考慮し、見通しをもった丁寧な言葉かけを心掛けたい。

(4) ひとりひとりの子どもや家庭環境を考慮しないかかわりについて
子ども一人ひとりの家庭環境や成長歴も異なることを常に考慮しながら、子どもも保護者も受け入れていく。
保護者支援も保育士の重要な業務であることを念頭に、育児と仕事の大変さ不安な気持ちに寄り添い、子育ての喜びや楽しさを感じてもらおうよう支援していきたい。

(5) 差別的なかかわりについて
大人の差別的な表現や行動は、乳幼児期に多大な影響を与えることを常に意識して保育していく。
保育以外の生活の中からも、一人ひとりの違いを大人が認め合うことを大切にしていきたい。

このセルフチェックリストを毎年行い、自身の保育の振り返りを行うことが大切だと思う。
何気ない言葉かけが、子どもを傷つけるような言葉になっていることもあったのではないかと反省する。
園では、保護者以上に子どもと関わる時間が多い私たちである。この大切な時期に子どもと関わる者として言葉を常に意識しないといけないと感じる。
この振り返りを今後の保育に生かしていきたいように、子どもの気持ちに寄り添った保育を行っていきたい。